

## 協力校としての取組

魚沼市立小出小学校

### 1 研究主題

確かな考えをつくる  
～ 伝え合い 学び合う授業を目指して ～

### 2 研究主題設定の理由

#### (1) 当校の児童の実態から

明るく素直な児童が多く、自分の考えを経験と関わらせて文章で表現しようとする姿勢が伺える。また、学年漢字計算テストの取組や、個別指導の充実の取組によって、繰り返しを必要とする学習にも根気よく取り組めるようになり、基礎学力が向上してきた。

ただ一方では、学習に対する主体的な姿勢や、学習の基礎となる学習習慣、学習規律の定着については、二極化の傾向があるといった指摘もあり、それらの改善に継続した取組や指導の工夫が求められるところである。

#### (2) 昨年度の研修を受けて

昨年度から研究副題を「伝え合い、学び合う授業を目指して」として、「伝え合い」「学び合い」を授業づくりのキーワードとして、一人一授業公開を原則とした授業研究中心の研修が進められた。子どもたちの曖昧な考えによる発言をていねいに拾い、全体に位置づける教師の適切な働きかけにより、『「ずれ（認識の違い）」を伝えたい」「調べて分かったことを伝えたい」という子どもの思いを引き出し、課題に主体的に取り組む姿を実現させた。

昨年度の授業実践から、教師が子どもの思いや願いに応じて、伝え合い、学び合う場を効果的に位置づけて授業を組織することが、子どもが確かな考えをもつうえで有効であることが共通認識された。しかし、自分の考えをもたせる時間を確保するあまり、導入が長くなってしまったり、表現力の高い子が話し合いをリードしすぎて、一部の子で授業が進む形となったりするなど、学級全体での学び合いとはならないという課題も見られた。どの子も「伝えたい」という思いをもって主体的に仲間に関わっていく学び合いの授業を目指し、今後も、学び合いの授業の具体を明らかにしていくことが求められる。

そこで、今年度も子どもたち同士のかかわりを大切に、必要感のある学び合いを中核とした授業を目指していく。子どもたち同士の学び合いを充実させることで、子どもたちのより主体的な学びと確かな考えの育成を図ることとする。

#### (3) 研究主題の意味するもの

今年度は、子どもたち同士の必要感のあるかかわりを生み出すことに重点に置き、特に、次のような「学び」を創造することをめざしたいと考える。

＜思いや考えを伝え合う＞

ここで言う思いや考えとは、読み取りや調べ活動、操作活動などの過程で得られるものである。それらを単に言葉だけとは限らず、絵や図、資料を用いて示したり、身体表現したりして周りの友達に伝えていくことである。

＜学び合って共に高め合う＞

友達の考えを聞き合い、理解し合い、自分たちで問題を解決していくことである。

#### (4) 目指す授業改善の方向

授業の中に、必要感のある子どもたちのかかわりの場を意図的につくることで、子どもたちのより主体的な学習が展開される。また、子どもたち同士のかかわりによって、「思考力」「判断力」「表現力」の高まりをつくる。

期待する子ども像

- ・ 自分の考えを友達に積極的に分かりやすく伝える。
- ・ 自分の考えと友達の考えを比較しながら課題を追究する。
- ・ 意見や考えのよさを見付け合い、互いに認め合う。
- ・ 互いの意見や考えのやりとりに楽しさを感じる。 など

### 3 研究内容

研究主題にこめた、学び合いを生み出し、目指す子どもを育てていくため、私たちが具現する授業像を次のように考える。

○ 自分の思いや考えを述べる目的や喜びを知り、互いに聞き合い、考え合いながら共に分かり合い問題解決していく授業

この授業を具現するためには、次のことを大切にしなければならない。

- ① 子どもの思いや考えを膨らませる時間と場の設定
- ② 思いや考えを出し合い、クラスで考えを練り上げたり、問題を解決したりする学びの体験の工夫
- ③ 「何のために」「どのように」話し合うか、目的意識をもたせた話し合いの場の設定と工夫
- ④ 話し合うことで、問題を解決できたり、主体的に学習を進めたりできるという満足感を味わわせていくこと

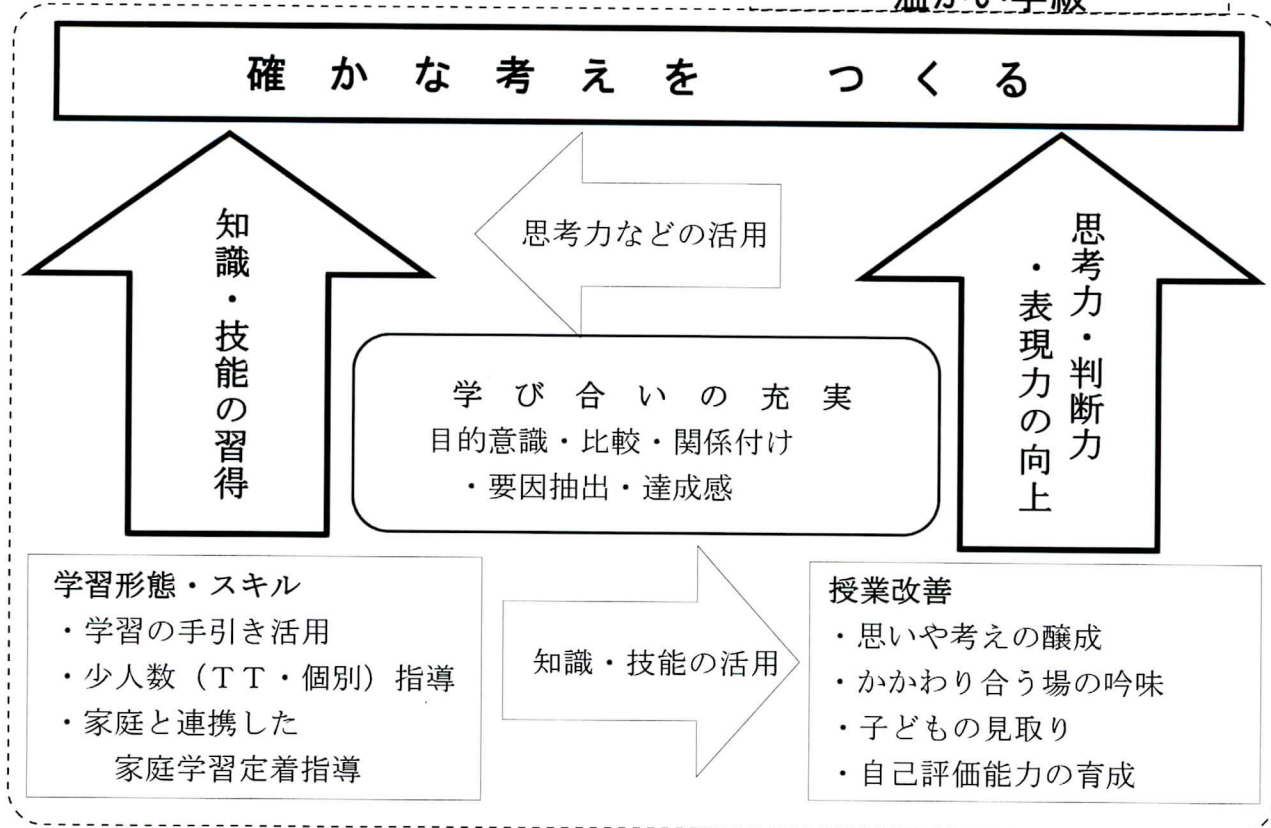
単元レベルでは、①～④のポイントについてそのつながりをつけ、ねらいを明確にした意図的な活動の組織が必要となる。また、1単位時間のレベルでは、③、④の視点からの支援の有効性について、評価や検討を加えていかなければならない。

そこで、今年度の研究内容として、次のことを特に課題として取り組みを進めていくこととする。

- ・ 伝えたいという思いをもたせる指導の工夫

#### 4 本年度の研修計画・研修日程

温かい学級



##### (1) 教科研究授業の実践

個人研究を中心として、一人一研究授業実践，公開授業を行う。その際，めざす子どもの姿を掲げ，その姿への迫り方については，学び合いの充実を図るアプローチの仕方で行い取り組む。また，互いの個人実践に学び合う。

##### (2) 月例テスト・Web問題・学習指導改善調査の実施や分析と指導法の改善

月例テスト・Web問題・学習指導改善調査実施と分析による一人一人の実態把握・学力実態把握を行う。Web問題については，ファイリングされた正答率などの資料を活用して分析を行う。明らかになったことは指導法を工夫したり，宿題などの課題を出したりするなどして，課題解決に努める。

国語，算数の学年月例テストを学習内容の定着を図る機会として，月一度程度実施する。授業で定着しなかったところ，次の単元のために復習したほうがよいところなど各学年で分析をし，内容を考える。

Web配信問題及びサポート問題，月例テストの活用として，次のサイクルで実施する。

(過去の配信問題の実施) → 配信問題の実施 (できるだけ早い時期に) → 傾向の把握と全体，個別指導の実施 → サポート問題の実施 → サポート問題ができない子への個別指導 → 月例テストで確実に身につけているか確認 → 再テストなどで個別指導  
学習指導改善調査の活用は以下の通り。

問題の実施 → 全校体制での得点集計 → 学級の実態と傾向の把握  
→ 授業改善の視点を明確にした授業研究

### (3) 「温かい学級づくり支援事業」

- ① hiperQ-U, Q-U 調査の実施。(5月, 10月, 1月)
- ② 事例報告シートの記入(全員)
- ③ 学年部1名の事例報告シートを基にした検討会(6月, 11月, 2月)
- ④ 各自が事例報告シートを見直し, 今後の方針を追記する。(6月, 11月, 2月)

## 5 本年度の研修日程

### (1) 教科研究授業の日程

- ① 前期研: 6月～7月 授業実践 実践のまとめ
  - ・ 個人の研究教科・領域や全体に関わる授業研究での指定教科・領域などに基づき, 学年部や研究推進委員会を中心として授業実践公開授業を行う。
- ② 中期研: 8月～12月 授業実践 実践のまとめ 県小教研分析  
※ 「小出小の教育実践」執筆(今年度は各自の実践を実践単元終了後1か月以内にまとめるものとする。各教科・領域などで求める授業像を明らかにし, 子どもの学びの具体的な姿を評価し, 理想の指導案を作成し, 実践上の成果と課題をまとめる。(詳しい形式は後日提示します。))
- ③ 後期研: 1月～3月 NRT 学力テストの分析
  - ・ NRT 学力テストの分析は各学年で行い, 分析資料を学年便りとして作成して, 3学期終業式の日個別結果シートと共に保護者へ配付する。
  - ・ 研修のまとめ, 来年度の課題

### (2) 授業研究について

- ① 研究教科について  
教科, 領域は問わない。  
(国語, 算数については学習指導センターの主事から指導を受けることができる)
- ② 実施について  
全員が実施する。
- ③ 実施日  
研修日(原則月曜日)を決め, 低・中・高学年がその日に実施する。サポート学級と級外教員は, 人数のバランスを考慮して何れかの部会へ所属する。協議会はその日の放課後, 低・中・高学年に分かれて実施する。
- ④ 研究授業の進め方
  - 指導案検討会 (全体にかかわるもののみ実施。学年部研では必要に応じて)  
授業日の2週間前を目安に(単元に入る前が望ましい)
    - ・ 単元構想の検討
    - ・ 本時案の検討
    - ・ 具体的な教材, 支援の工夫, 評価についての検討
    - ・ 授業前日頃に, 模擬授業(シミュレーション)を実施し, 授業者, 学年部員のイメージを明確にすることが望ましい。
  - 授業当日  
参観者全員による, 子どもの姿の記録, 見取り  
※ 写真を何枚か撮っておいてください。  
※ 授業記録等は学年研推が中心に準備・運営してください。

○ 協議会

自分の学年部に参加。無い場合は自由。(協議会に参加されない場合は、授業感想用紙に記入し、授業者へ渡す。)

- ・ 記録に基づいた、子どもの学びの足跡の解釈の出し合い
- ・ 子どもたちの学びの具現状況，達成度の評価
- ・ 児童が考えを表出している姿を明確にし，今後の教育活動に生かす。
- ・ 学び合いの有効性

※ 協議会后，授業記録と協議会記録を職員全員に配付する。

(3) 「温かい学級づくり支援事業」関連の研修

① 研修の日程

hiperQ-U 調査の実施(5月14日まで，1月)，Q-U 調査の実施。(10月)

②事例報告シートの記入(全員)…結果到着後1週間以内

③学年部1名の事例報告シートを基にした検討会(6月，11月，2月)

④各自が事例報告シートを見直し，今後の方針を追記する。(6月，11月，2月)

※1学期は市教委伊佐統括指導主事から来ていただき、検討会に参加し、指導助言をしていただく。

## 思いや考えを聞き合う子を育てる指導の工夫

4年2組担任 目黒 恭子

### 1 単元名 「面積」

#### 2 単元のねらい

- 面積の大きさを数値化して表わすことよさに気づき、いろいろな形の面積を求めようとしている。【算数への関心・意欲・態度】
- 広さを数値化する方法を考えたり、測定する広さに応じた面積の単位や求め方を考えたりしている。【数学的な考え方】
- 長方形や正方形の面積の公式を使って求めることができる。【数量や図形についての技能】
- 面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の間係を理解している。また、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。【数値や図形についての知識・理解】

B(1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。  
D(2)イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

### 3 本単元で促したい確かな考えをつくるプロセスとその方策

#### (1) 本単元で求める「確かな考えをつくる」子どもの姿

研修テーマ 思いや考えを聞き合う子を育てる指導の工夫

これを受けて、本単元で求める「確かな考えをつくる」児童の姿を以下のように設定した。

思いや考えを聞き合い、自分の考えを見直したり、深めたりする子

#### (2) 具体的方策（学び合い活動充実の方策）

- ①子どもの視覚に訴えかける課題の工夫
- ②他者の説明を取り入れた学び合いの場の設定
- ③課題とまとめのある板書

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

既習事項と比較して、解けそうだという思いをもって課題に取り組めた。また、友達の考えと比べながら聞いて考えを見直すこともできた児童もいた。そして、振り返りでは、作戦の良さに気付くことができた児童が多数いた。

#### (2) 課題

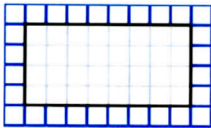
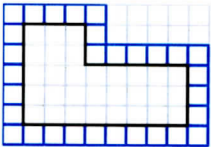
今後、発表が終わったあと、「いいです」の返しで終わらせるのではなく、適切に反応できるよう意識付けたい。よい聴き手を育てることで子どもの学び合いがさらに深まると考える。

5 本時の指導 (本時 5 / 10 時間)

(1) ねらい

複合図形の面積を、分割したり、合わせたりすることによって、求め方が分かる図形の面積の公式を活用できることに気づき、根拠をもって求め方を説明できる。

(2) 本時の展開 修正案

過程	学習活動	留意点(・) 評価(□)
導入 10分	<p>T1: この図形の面積を求めましょう。</p>  <p>C1: 長方形の面積の公式を使って求められるぞ。</p>  <p>T2: この図形の面積を求めましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">Bは、2つの長方形に分けられそうだ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">Bは、このままでは求められないな。</div> </div> <p>C2: 長方形だったら、公式を使って求められそうだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の図形を提示する。 (マス目ボードに図形を貼ったもの1辺は1cmとする。)</li> <li>・長方形の面積の公式を黒板にはる。</li> </ul>
展開 25分	<p>◎工夫して面積を求めよう。</p> <p>T2: Bの面積を求めましょう。式、答え、どうやって答えを求めたかを書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <math>5 \times 3 + 3 \times 5 = 30</math>                      2つの長方形に分けて計算します。                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <math>2 \times 3 + 3 \times 8 = 30</math>                      2つの長方形に分けて計算します。                 </div> </div> <p>T3: 式を発表してください。</p> <p>T4: この式を書いた人はどのように考えたのでしょうか。</p> <p>C3: 2つの長方形に分けて計算しました。(2つの長方形作戦)</p> <p>C4: 大きな長方形から、小さな長方形を引きました。 (長方形-長方形作戦)</p> <p>C5: 一つの長方形にしました。(一つの長方形作戦)</p> <p>T5: 面積の求め方に作戦をつけましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り貼りや補助線を入れるなどの操作をしながら考えられるように、印刷したものを準備する。</li> <li>・違う考えの人に説明してもらおう。</li> <li>・大きな長方形から小さな長方形が取れた形と考える式が児童からでなかったときは教師が式を提示する。</li> </ul>
終末 10分	<p>まとめ 長方形にすると、面積を求めることができる。</p> <p>T6: 算数日記を書きます。これからどの作戦を使いたいかを書きましょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">やっぱり2つの長方形作戦を使いたいです。長方形の面積が簡単に分かるからです。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">長方形-長方形作戦を使ってみたいです。最初に大体の面積が分かるからです。</div> </div>	<p>□A 既習事項をもとに面積の求め方を分かりやすく説明できる。 B 面積の求め方を理解することができる。</p>

ジグソー学習を取り入れた理科指導の一考察  
～5年「雲と天気の変化」の単元を通して

5年3組担任 米山 智

1 単元名「雲と天気の変化」

2 単元の目標

天気の変化を時間や自然災害などに目を向けながら調べ、見出した問題を計画的に追究する活動を通して、気象現象の規則性についての見方や考え方を育てる。

3 本単元で促したい確かな考えを作るプロセスとその方策

(1) 本単元で求める「確かな考えをつくる」子どもの姿

① 課題をつかむ

・天気と雲の関係に関心を持ち、自ら問題を見付けることができる子

② 見通しをもつ

・集めた情報の中から天気との関係を読み取り、その考察を通じて今後の天気の予想をすることができる子

・グループで考えを説明し、全体で話し合う中で、自分の考えを見直したり、再確認したりすることができる子

③ 調べる

・雲の様子の変化や気温、風向き、雲画像などの情報を集め、記録にまとめることができる子

④ 深める

・学習したことを自ら日常生活と関連付けて考えたり、活かしたりすることかできる子

(2) 具体的方策

① 課題をつかむ

・児童の素朴な考え方を揺さぶったり、習得した知識と対比させながら再考したりする必要感を生み出す課題を設定する。

② 見通しをもつ

・理科的な学習スタイルに慣れさせるために、学習の流れの「型」をおさえたワークシートを単元を通して活用し、見通しをもって実験に取り組むことができるようにする。

・自分の考えを確かにするため、または発表に対する自信を持たせるために、話し合いの場を設定する。

③ 調べる

・天気の予想については、予想に応じて調べる内容を選択できるようにし、児童の問題意識に合わせて実験に取り組むことができるようにする。

④ 深める

・個々の児童が集めた情報を持ち寄り、複数の情報を総合的にとらえ、天気の予想をさせるための話し合いの場を設ける。(ジグソー学習)

4 成果と課題

(1) 成果

・一人一人が自分の役割に責任をもって取り組む姿が見られた。スペシャリストグループでは協力して調査する姿が見られ、予想グループでは全員が自信をもって調べた結果を報告していた。グループ全員の情報をもとに天気を予想するというジグソー学習を用いた本実践の単元構成は、学習意欲の持続、見通しをもった学習、話し合いの必要性という点で有効であった。

(2) 課題

・今まで調べた情報の変化の様子から、その情報の今後の変化や天気とのかかわりを予想する活動を、それぞれのスペシャリストグループでさせる必要があった。




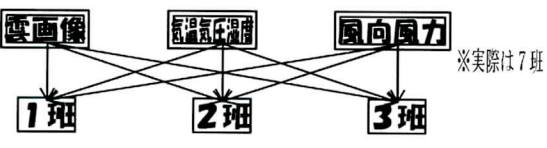
- ・西の空から天気が変わっていくという既習事項を生かすべく、雲画像や雲の様子ของกลุ่มの情報にもっと着目させるべきであった。

## 5 本時の修正案

### (1) ねらい

気象衛星の雲画像や実際の空の様子、風の向き・強さ、湿度、気圧、気温などから、根拠を明らかにしながら明日の天気を予想することができる。

### (2) 本時の展開

時間	学習活動(○発問 ◎主発問)	指導上の留意点 ◆評価(方法)
0	<b>1 前時の学習内容を確認し、本時の課題を知る。</b> ○「アメダスに勝つ」、天気の予想をしよう。 「気象衛星の雲画像がヒントになる。」 「実際の雲はどうなっているか。」 「いろいろな情報を関係づけて予想すればいい。」	
3 5	<b>2 天気の予想をするために、情報を集める。</b> ○明日の天気を予想するため、スペシャリストグループに分かれて、情報を集めよう。 ・調査時の注意事項を確認する。 ・スペシャリストグループに分かれ、調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明日午後2時の予想をすることを伝える。</li> <li>・複数調査を行うので、注意事項をしっかりと確認させる。</li> <li>・より正確な予想をするために、西の空の雲の様子は必ず全員に確認させる。</li> <li>・過去の情報の記録と天気の変化から、今後の情報の変わり方や天気とのかかわりなどについて、みんなですべて予想するよう伝える。</li> </ul>
15	<b>3 生活班に戻り、調査結果を伝え合い、明日の天気について話し合う。</b> ◎集めた情報をもとに、明日の天気について話し合おう。  「西の空の様子は…。」「風向きと風の強さは…。」 「気温はだんだんと…。」「気圧の変化は…。」 「湿度は…。」「雲画像を見てみると…」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの用意。(それぞれの情報を記入)</li> <li>・スペシャリストグループでの話し合いを生かし、一人一人に情報の変容や天気とのかかわりについて発表させる。</li> </ul>
30	<b>4 生活班での話し合いをもとに、個々の予想を記入する。</b> ○話し合ったことをもとに、明日の天気について予想しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの用意。(個々の予想を記入)</li> </ul>
37	<b>5 予想を発表する。</b> ○予想を発表しよう。 「雲はあるけど雨が降っていない。だから明日は晴れか曇りだ。」 「気温と気圧、湿度から考えると、雨は降らないと思う。」 「西の方にある大きな雲が気になる。風も強いので、曇りか雨になると思う。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観察記録や雲画像などのデータから、天気の変化の特徴を読みとり、その考察を通じて明日の天気の予想をする。(発言：行動観察・記録分析)</li> <li>A: 観察記録や雲画像などのデータから、天気の変化の特徴を読みとり、その考察を通じて明日の天気の予想をその理由も含めて説明することができる。</li> <li>B: 観察記録や雲画像などのデータから、天気の変化の特徴を読みとり、その考察を通じて明日の天気の予想を予想することができる。</li> <li>C: 児童への立て：個別に指導助言をする。</li> </ul>
42	<b>6 振り返り</b> ○今日の学習の振り返りをしよう。 「○○さんとは予想が同じだったけれど、根拠が少し違った。それでも納得できる。」 「同じ情報なのに、ちがう予想になった。明日が楽しみだ。」 「△△さんとは根拠となる情報の読み取り方が違った。どっちが正しいのかな。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの用意。(振り返り)</li> </ul>

# 数学的な表現力を高め、自分の考えを深める子どもの育成

## ～第6学年「倍と割合」の実践を通して～

6年2組担任 島岡 優希

1 単元名 文章から関係を読み取ろう（倍と割合）

2 単元のねらい

- 2量の関係の割合を倍で表そうとしている。 【関心・意欲・態度】
- もとにする量を1としたときの比べられる量の割合を図をもとに考えている。 【数学的な考え方】
- 倍を使って割合を表すことができる。 【技能】
- 倍を使って割合を表すこともあることを理解している。 【知識・理解】

3 本単元で促したい確かな考えをつくるプロセスとその方策

(1) 本単元で求める「確かな考えをつくる」児童の姿

研究主題 「『確かな考えをつくる』～伝え合い 学び合う授業を目指して～」

これを受けて、本単元で求める「確かな考えをつくる」児童の姿を以下のように設定する。

- 二つの量の関係を読み取り、数直線や表、言葉と関連づけながら式を使って説明できる子
- 自分と友だちの考えを比較し、自分の考えを見直したり深めたりする子

(2) 具体的方策

①問題解決に向けての段階的なプロセス

授業の導入で、既習事項を確認する問題を提示する。それが、本時の課題を解決するための手がかりとなるようにする。また、課題を子どもたちの意識や生活に寄りそったものや、思考のズレが生まれるものを設定し、子どもたちの学習意欲を高める。その際、「今までとの違いは?」「どこが難しい、分からない?」などとクラス全体に投げかけて、全員で課題を追究していくようにする。

②自分の考えで見通しをもち、表現する時間の確保

自分の考えをノートに書くことで、自分の考えを筋道を立てて説明できるようにする。そこで、読み取った2量の関係を図や数直線、表を使って表現する。そのために、既習事項を掲示し、説明をするための手段となるようにする。

③仲間と考えを交流する場の組織

ペア交流では、自分の考えに自信をもったり、見直したりするための活動とする。全体交流では、新たな視点に気付き、よりよい説明の仕方に触れる。そこで、友だちの考えの続きを考えさせたり、自分の言葉で説明させたりする活動を行うことで、自分の考えに取り入れる姿を期待する。考えを共有させたり、理解を深めさせたりしていきながら表現力を鍛えたい。

4 課題と成果

導入時の助走問題や既習事項を確認する掲示物が、前時との違いを捉え、問題解決のために有効に働いた。全体交流でよい説明を聞き、算数の言葉を取り上げたことで、ペア交流の際に自分の説明に生かし、自分の考えを深める姿があった。

しかし、小さい数から大きい数を割ることへの抵抗感が強く、導入やまとめの際に、子どもたちの困り感をもっと引き出したり、子どもの声から出たキーワードを生かしたりするなど、授業の展開をする必要があった。

6 本時の指導

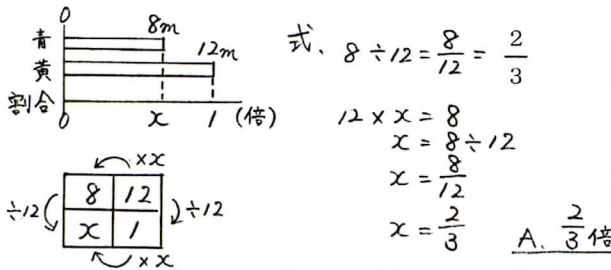
(1) ねらい

- ・ 3つの量の中から、必要な2つの量を読み取り、その2量の関係を割合を使って表すことができる。
- ・ もとにする量の方が大きい場合の割合を求め、その割合を分数で表すことができる。

(2) 本時で促したい確かな考えをつくるプロセスとその方策

- 2量の関係を、数直線や表に表すことで読み取れるようにする。
- よりよい説明の仕方を身に付けたり、自分の考えを深めるとりするための話し合い活動を組織する。

(3) 本時の展開 (2/3時間)

過程	学習活動	留意点 (・) 評価 (□)
5分 (導入)	<p>テープが何本かあります。テープの長さは次のようになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤色のテープの長さは3m</li> <li>・ 黄色のテープの長さは12m</li> <li>・ 青色のテープの長さは8m</li> </ul> <p>問1 黄色のテープの長さは、赤色のテープの長さの何倍ですか。</p> <p>C 簡単だよ、4倍だ。</p> <p>T1 式はどうなるのでしょうか。</p> <p>C 式は、<math>12 \div 3</math>だから、<math>12 \div 3 = 4</math>だね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題文を提示する。最初は、青色のテープの数値を隠しておく。</li> <li>・ 既習事項を掲示物で確認する。</li> </ul>
25分 (展開)	<p>問2 青色のテープの長さは、黄色のテープの長さの何倍ですか。</p> <p>T2 式はどうなるのでしょうか。</p> <p>C <math>8 \div 12</math>    C <math>12 \div 8</math>    C 分からない</p> <p>T3 問1の問題と違うところはどこですか。</p> <p>C Xの位置が違う。    C 今までと数字が逆だ。    C 分数が出てきそう。</p> <p>T4 どんな技を使えば式を考えたり、友だちに説明したりできそうですか。</p> <p>C 表に表してみよう。    C 数直線を書いてみればわかるよ。</p> <p>◎ 2つの量の関係を数直線や表、言葉を使って表し、式を説明しよう。</p> <p>T5 友だちに式を分かりやすく説明できるように、自分の考えを書きましょう。</p> <p>〈自分の考えをノートに書く〉</p>  <p>式、<math>8 \div 12 = \frac{8}{12} = \frac{2}{3}</math></p> <p><math>12 \times x = 8</math>  <math>x = 8 \div 12</math>  <math>x = \frac{8}{12}</math>  <math>x = \frac{2}{3}</math>    A. <math>\frac{2}{3}</math>倍</p> <p>〈全体交流〉数直線・表をもとに解き方を説明する。          〈ペア対話〉よい説明の仕方を、自分の説明に取り入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体での交流の中で、課題解決に向けての見通しをもたせる。</li> <li>・ 前時の課題との違いを全体で共有する。また、その違いを表や数直線を使って、視覚的に示す。</li> </ul> <p>□ 具体的評価基準</p> <p>A: 2量の関係を数直線や表に表し、それらを使って分かりやすく式の説明をすることができる。</p> <p>B: 2量の関係を数直線や表に表し、式を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい説明のポイントや、数直線や表にあてはめて2量の関係を確認したりする。</li> </ul>
15分 (終末)	<p>T6 練習問題をしましょう。</p> <p>○ まとめ: 倍 (割合) は、くらべられる量 ÷ もとにする量で求めることができる。</p> <p>T7 ふり返りをしましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスターシートをする。</li> </ul>